

4. 2010年度活動計画案

2010年度も前年度に引き続き、学会の設立趣旨に基づいて、活発な活動を展開していく予定である。

(1) 定期刊行物等の発行

1. 会誌『人間と環境』36巻3号, 37巻1号, 2号を刊行する。
2. ニュースレターを発行する。

(2) 研究発表会等の開催

1. 年次大会
2010年6月19日～20日に横浜国立大学で開催する。
2. 若手研究者発表大会を2011年2月～4月の間に開催する。
3. 総会
2010年6月19日に横浜国立大学で開催する。

(3) 学会の組織化

1. 会員の拡大
2. 部会活動の強化

(4) 部会活動計画

1. 総務部・庶務部

- ① 会費徴収の増大を図る。
会費の納入状況を会誌の発送時に通知して、会費の滞納を防止する。
- ② 新規会員獲得を促進する。
環境に理解のある大学図書館や企業の購読会員を増やす。
学会や各種シンポジウム開催時に入会案内を準備して、個人会員を増やす。
若手企画の積極的な開催により個人会員を増やす。
- ③ 研究発表会の発表条件および会誌『人間と環境』への投稿条件として当該年度の会費が納められていることとする。
- ④ 学会費の値上げについて検討を進めていく。
- ⑤ 学会事務局のあり方について、委託等についてひきつづき検討する。

2. 編集部

- ① 『人間と環境』36巻3号, 37巻1号, 2号を刊行する。
- ② 編集委員会を適宜開催し、雑誌の質の向上、編集体制の充実を図る
- ③ 今後『人間と環境』を電子ジャーナルおよび機関リポジトリ等での公開を行っていく。尚、著作権は学会に帰属するものとする。本総会以前の『人間と環境』に掲載された論文等を公開する場合の取り扱いについては、会員に一定の周知期間を設け、公開を望まない会員以外の論文は公開していく。

3. 共同研究部

- ① 共同研究部会の取り扱う範囲について(2008年度版)に基づく業務を行う。
- ② 年度末の幹事会に合わせて共同研究部会を開催する。
- ③ 各プロジェクト・ワーキンググループについて、進捗状況を確認するとともに、新規プロジェクト・ワーキンググループの立ち上げについて本学会との調整を行う。

4. 企画部

- ① 公害や環境に関わる重要課題について、適宜学会内外と連携しつつ、シンポジウム、講演会等のイベントを企画立案し、開催する。
- ② 2009年度に設置した若手活性化プロジェクトの運営を通じて、若手研究者発表会、交流会等の企画、実施に取り組む。

5. 情宣部

① ニュースレター

2010年度も引き続き、基本的な情報は会誌『人間と環境』および急を要する情報は学会ホームページに掲載することとし、手間と費用の合理化を図る観点から、ニュースレターは両掲載事項を補う役割として必要に応じて発行していくこととする。尚、本大会以降のニュースレターに関しては、Email登録会員に関しては、電子メールで配信し、電子メールを利用していない会員に関しては、紙媒体で送付していく。

② ホームページ管理

2010年度も引き続き、学会の情宣の主要ツールとして重視して取り組んでいく。

6. 国際部

- ① 本学会の活動を国際的に広めるために、本会員の活動も積極的に発信できるように、本年度も会誌を活用する。
- ② 諸外国から環境問題に関する研究者らが来日し、国際部として、シンポジウムや講演会等が開催できる条件がある場合には、それらを開催する方針である。